



烈日を終え、小さくなった虫の音と身をかすめる風に冬の訪れを感じる頃、街中にどっしりと根を生やしたM寺さんを訪ねてきました。

今回は一風変わって、寺院建築を紹介します。約40年前の台風により本堂を失い、以来本堂再建への情熱を一身に、2007年8月に念願の建立を果たし、早3年が過ぎました。お寺特有の反り返った屋根を支える大きな柱や梁は全て杉を用い年月と共に黄金色へと表情を変え、懐かしい社会をゆったりと見つめているかのようです。再建への計画が本格化した際、限られた予算では高価な材木を用いた本堂は到底不可能に近く、箱型の鉄骨造でも…と、半ば断念しかけていたそうです。しかし本堂を失い、長い年月の間ずっと心の

木のすまい仕様の家

「夢が実現した本堂」

中で、「本堂を得る時は、木造で、お寺らしい本堂にしたい!」これは、住職だけの事ではなく、門徒さんや、地域の人々の夢でもありました。完成した本堂には、柱や梁以外にも床や天井に杉材を使い、壁には漆喰を使用しており、住職いわく「大阪市内でも杉で造られた本堂はここだけ! オンリーワンやで!」と自慢気です。お参りに来られた方々も、「やっぱり木の匂いってイイなあ」と口々におっしゃるそうです。しずまり返った本堂に、時折「ピシッ・パキッ」と材にヒビが入る音や、床柱にある背割れの動きは、決して鉄骨やコンクリートでは味わう事の出来ない、木の生命と、材木の温かみや、何と云っても、ゆとりを感じます」と奥様。資材豊かな日本。安価な外材に圧倒され手付かずの山は、日を追い荒れて行く。それが全てと言う訳ではないのですが、自然の恵みを大切に、地産地消と言う、人 本来の営みを豊かにし、文句の前に感謝…という語る住職さんの顔はまるで仏様のようにでした。



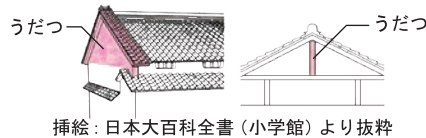
木の家
ひょうご木のすまい協議会
Vol. 21
November
December
2010

ウダツが上がる。

日本では「ウダツが上がる」ということが昔から言われています。ウダツは妻壁を屋根より一段高く上げて、小屋根を付けた部分をいうのですが、富裕の家でなければウダツ(余分)を上げられなかったのだ、そこから転じて、富裕な家のことを「ウダツが上がる」というようになりました。

ただ、この意匠(ウダツ)はもともと町の防火の機能を持つているので、けつして余分なものではないのですが、いつの間にかそれが「家格」を決める物差しになってしまったのです。

現在はウダツよりも、英国風の外観であったり、豪華な和風の玄関が「家格」を決める指標になっていますが、家を造るに際して大切なことは、ウダツが上がるかどうかではなく、「住み心地」がいかどうかにかき、それが本当の豊かさになると考えます。



【兵庫県林務課からのお知らせ】

県産木材利用融資がさらに使い易くなりました。

従来の融資条件に加え、環境配慮型住宅であれば、融資限度額が拡充されます。

- 新築・増改築
最高融資額: 2,700万円(返済期間25年以内)
- リフォーム
最高融資額: 900万円(返済期間10年以内)

※いずれも融資金利は平成22年度下半期1.2%固定。環境配慮型住宅の条件は下記のホームページをご覧ください。
URL: <http://web.pref.hyogo.jp/>

ひょうご木のすまい協議会
会長 三渡 圭介

— ひょうご木のすまい協議会のイベントご案内 —

●「ひょうご木のすまい」産地見学ツアー

県産木材や木造住宅に興味のある皆様は、この機会にぜひご参加ください。生産地(伐採現場)から製材工場・モデルハウスまでの木材の流れをバスで訪ねます。

見学先: 伐採現場(宍粟市)・製材所(宍粟市)
モデルハウス(西宮市/宍粟市)



とき: H22年11月27日(土)
8:00~18:30(予定)
費用: 大人/1,000円
中学生以下/無料
集合場所: 阪急西宮北口
またはJR姫路駅

※見学先は変更になる場合があります。詳しくはお問合せ下さい。



小冊子 「キノコイェノコ ひょうご2010」

「ひょうごの木を使った木の家」について、ユーザーの話や兵庫県林務課の話などが、掲載されております。ひょうご木のすまい協議会メンバーの紹介の「頼れる工務店、見てある記」では、より良くひょうご木のすまい協議会を理解していただく内容となっております。

※小冊子「キノコイェノコ」ご希望の方は事務局まで~ 送り先を事務局までお知らせ下さい。